



令和6年3月8日（金）

## 第12回考古グループ会議を開催しました

考古グループ会議では、校了を前に原稿の全てのページの読み合わせが行われました。

『新編遠野市史 資料編 考古』は、第1章先史、第2章古代、第3章中世・近世・近代の3つの章にわけて55の遺跡を掲載するほか、コラムを設けて遠野の考古学について紹介する内容となっています。

5名の執筆者が各自の原稿を事前に校正し、会議では数字や時代の表記など全体に共通する部分や、細かな言い回しについても確認が行われました。また、図版の出典や引用についても確認し、編さん室で手続きを完了することとしました。

『資料編 考古』と『資料編 古代・中世』が校了すると、次はいよいよ通史編の執筆準備に入ることになります。



▲会議の様子

色校正とは、印刷物の色合いがイメージ通りに再現できているかを印刷前に確認する作業のことです。原稿を見て、実物の色味に近づくよう調整します。



令和6年3月16日（土）—17日（日）

## 第9回近世部会を開催しました



▲会議の様子

第9回近世部会では、『新編遠野市史 資料編 近世』の発刊を来年度に控え、各委員が執筆した粗原稿の報告および確認と文献の調査を2日間にわたって行いました。

『新編遠野市史 資料編 近世』は9名の委員によって執筆されています。大まかに分野ごとに分かれています。中には重複してしまう資料もあるため、どの分野で扱うかや、刊本とDVDどちらに収録するかといった協議を行いました。またあわせて、章ごとに設ける解説の執筆担当者についても決定しました。

今回の会議を受けて原稿を執筆あるいは修正し、4月末までに初校を提出します。その後編さん室の確認を経て6月頃入稿し、編集・校正作業と進んでいきます。刊本のほかに、刊本に収録しきれなかった資料や絵図のデータを収録したDVDも作成するため、かなりのボリュームになることが予想されます。

『資料編 近世』は10の章に分かれており、1章につき1〜3名の委員が執筆にあたっています。檜山佐渡との関係から幕末の遠野南部家の動きを知ることができる第10章や、飢饉や一揆について詳しく取り上げた第8章など、見どころたっぷりです。



編集・発行 遠野市民センター市史編さん室

〒028-0515 岩手県遠野市東館町3番9号（遠野市立図書館・博物館内）

TEL:0198-62-2340 FAX:0198-62-5758